

## 創業90年 医療機器上場会社の経営

### 経営トップ講義 @県立大 「ビジネス経済の実践」要旨

⑤



「器械や材料を届ける先に患者さんがいて、その命を守る使命がある」と語る山下社長  
＝県立大佐世保校（山口隆行撮影）

山下医科器械代表取締役社長

やましな なおと  
山下 尚登氏

私は佐世保の出身で医療機器の総合商社の社長を務めている。昨年の8月には創業90年を迎えることができた。現在は福岡にも本社があるが登記上の本店は佐世保市湊町にある。九州一円に支社・営業所があり、売上高は525億円、従業員は連結で527人だ。

大正15（1926）年8月に祖父の忠次郎が個人経営で創業した。当時は日本海軍の佐世保鎮守府があり、海軍の

病院（現在の佐世保共済病院）に血圧計や心電計などを売っていたが、太平洋戦争末期の大空襲で社屋を焼失した。戦後再興し、「ポータブルレントゲン」などの商品がよく売れて業績は徐々に回復。昭和25（1950）年には株式会社とした。その後も医療機器の発展とともに成長を続

けた。父の登が社長の時5つの基本方針を定め、これらは今でも朝礼で唱和している。2006年2月に東京証券取引所2部に上場。翌07年5月には1部に上場した。医療機器・材料は100万件を超える品種がある。使い捨て注射器から血管内を拡張するステントといった数十万

円もする消耗品、CT（コンピュータ断層撮影装置）、MRI（磁気共鳴画像装置）といった大型機器までさまざま。医療機器市場は年々拡大を続け2兆8千億円を超える規模になっている。また、国の医療費は41兆円を超える規模だが、その40％は税金で賄われる公共性の高い業界だ。そのため法令順守や公益性が強く求められる。お客さま（医療機関）のニーズが何かを考え、器械や材料を届ける先に患者さんがいて、その命を守る使命がある。人・モノ・情報のあらゆるニーズに対応し、新しい技術も積極的に取り入れていく。今は地域包括ケアシステムと

いった「地域で患者さんを支える」という流れに対応し「トータルヘルスケアサポート事業」を展開していく考えた。株式上場するには一定の規模や株式数、内部統制が確保されているかなど厳しい基準がある。そのため全国で上場企業は3574社しかない。九州に119社、長崎県内では2社だ。正しい決算と透明性が求められ、四半期（3カ月）ごとに決算情報を開示する。いいことも悪いことも適切に開示しなければならぬ。

## 基本身に付け個性磨く

私の信条は「不易流行」だ。変えてはならない伝統は守りつつも、時代に合わせて課題を見つけて常に一歩前に前進する、という意味だ。もう一つは「格に入りて格を出せよ」だ。基本を身に付け、それをベースに個性を磨いて自分のものとする、という意味だ。現状に甘んじることなく大いに個性を発揮していただきたい。

（西村伸明）

＝次回は21日に掲載します＝